



日本社会事業大学 清瀬キャンパス



社大同窓会

vol.
85

同窓会×大学
パートナーシップ推進



発行所／日本社会事業大学同窓会
〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30
電話 042-496-3053
振替口座 00100-9-42448
ホームページ <http://jcsw-alumni.com/>

編集・印刷／株式会社 JA情報サービス
(日本農業新聞グループ)

発行日／令和2年2月1日





社大祭

27日(日)



僕は清瀬の
ニンニンくん

12月7日(土) 同窓会セミナーin秋田

北東北3県同窓会交流会 秋田市エリアなかいち





ハイライトはHAPPY WEDDING
大学で結婚します。実行委員会が
オリジナルでお届けする企画です。



第50回

10月26日(土)



社大の紅葉スポットを歩く



12月22日(日) ブラスバンドサークル
第16回定期演奏会



12月2日(月) 演劇研究会
2019年度 冬公演トランス



2019 年度冬公演『トランス』無事
に終演いたしました!ご来場いた
だいた皆様、本当にありがとうご
ざいました。今後も 演研一同、
「ONE TEAM」で活動に精進して
参ります!





青空が広がっていて気持ち良さそうです!



新しいことにチャレンジ。 様々な方々と交流していける 活動を目指して

Hi-Ho!って??

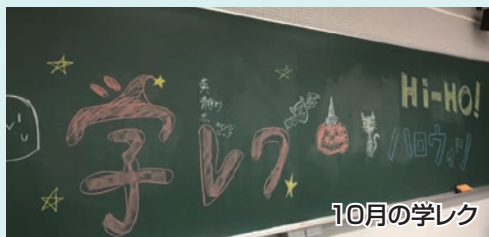
清瀬市内に住む高齢者の方と一緒に行事を企画し、活動するサークルです。食事会、温泉、一泊旅行、ディズニーランド、etc。アイデア次第で新しいことにチャレンジします。車椅子、介護講習会も企画するので安心です!



新入生歓迎会。自己紹介ゲームなどをして親睦を深めました。
今年度はたくさんのメンバーが入ってくれて嬉しいです。



1年生の子と登録者の方が
園内を見学しています。



10月の学レク



学内レク。
メンバーの2年生が
福笑いをしています。

Hi-Ho! 活動メモ

- 5月 ムーミンバレーパークにおでかけ
- 6月 学内レクリエーション
- 7月 流しそうめん
- 10月 学内レクリエーション
- 11月 葛西臨海公園水族園

学内レクリエーションが多いです。ポッチャや自己紹介ゲーム、クイズなどを行い楽しんでいます。



7月流しそうめん。副代表がレクチャーしています!

●これからの活動

高齢者の方だけでなく、障がい者、障がい児など様々な方々と交流していけるサークルを目指します。年齢性別関係なく、1人1人のパーソナリティが発揮される場となることを願っています。学年関係なく楽しめていたら何よりです!!

(サークル代表 林 ほたる)



ムーミンバレーパークにおでかけ。フォトジェニックですね!!!



母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。



ボランティアセンター 学生スタッフ

「1step」2019年の活動より



● 社協X1step ボラカフェ ● ～学生と地域を繋げる～

6/6(木)昼休みに、清瀬市内のボランティア・市民活動を社大生に紹介する企画を、清瀬市社協と共同開催しました。福祉分野だけでなく、国際交流・居場所づくりなど様々なジャンルの活動先を紹介し、6月～7月に体験会を実施、その後のボランティアに繋がりました。

当日は40名を超える学生が来場し、26名が体験会に参加。これからも社協と連携して、地域と学生を結びつける機会を作っていきます。



● 十文字学園女子大学との交流会 ●

清瀬市内の子ども食堂で共にボランティア活動をしている「十文字学園女子大学」の皆さんと、11/23(土)社大にて交流会を開催しました。

互いの活動を発表し合い、地域福祉や子ども関係のボランティア等について意見交換をしました。今後も他大学のボランティア団体と交流・連携し、活動の幅を広げていきたいと考えています。



第50回 社大祭を終えて

新たな一歩、あなたと共に！

社大祭実行委員長 宇賀那 康政

今年のスローガン「新たな一歩、あなたと共に」のもと、第50回の節目となる大学祭を無事終えられた。このスローガンでは、より多くの人に足を運んでいただき、社大を知っていただくこと。大学祭を通して清瀬の人々に福祉を身近なものに考えていただくきっかけにしていきたいと思いますという2つの思いがあった。

福祉車両の展示や、清瀬出身のパラ五輪メダリストの講演など、さまざまな福祉の分野に触れられる機会を作ると共に、誰でも遊べるよう、体育館を開放し、車椅子バスケの体験を催したり、清瀬で活躍する当事者団体が行うサークル活動の販売を募集したりした。そのせいもあってか、車椅子を使う方や清瀬で日中活動を行っているという利用者の方々の参加も例年より目立っていたようだ。

様々な方に来ていただけた50回目の大学祭、全てが完璧だとはいかなかったが、来年、その先へと繋いでいけるも

のだったのではないだろうか。

しかしながら、複雑な造りの学校の案内方法や、老朽化しバリアフリーとは程遠い中庭など、我々学生にはどうにもできない問題も多々あったことも事実である。



ハッピーウェディング ご夫婦と実行委員

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

1980年度入学クラス会 3年に1度



11月9日(土)表参道ワイン食堂Denにて、80年度入学学生同窓会を行いました。出席者は42名でした。お世話になった庄司先生、佐藤先生、数間さんが参加してくださり、近況報告や昔話に花を咲かせました。この集まりは3年に1度です。次回も盛況に実施したいです！ 森 雅巳



岩手県支部 総会・懇親会

11月4日(祝・月)アートホテル盛岡で。参加者は、専門職大学院木戸宜子准教授(同窓会事務局次長)を含めて12名。広い岩手県ですが、遠くは沿岸の宮古市から小関憲一さんにも参加いただきました。30歳代から80歳代の幅広い年齢層の皆様に参加いただき社大での思い出話に花が咲き、大いに盛り上がりしました。

役員体制は、右京晶久支部長が再任され、更に支部活動を盛り上げて参ります。 星 拓史



母校の現状と課題

4年振りの開催 群馬県支部の集い

9月21日(土)前橋市で。今回は会員間の近況報告会とし、参加者の「昔と今」を語り合いました。その後の懇親の場では、同窓会監事として大学の近況をご報告いただいた山本智先生に生演奏を披露していただき、美しい歌声とギターの音色に酔いしれました。

群馬県支部長 小出 省司



ホテルラシーネ新前橋

同窓会公開セミナー神野直彦氏講演会・北東北3県同窓会交流会

12月7日(土)秋田市にぎわい交流館で。このセミナーは、秋田・青森・岩手県支部合同の同窓会活動です。3県からの同窓生24名に加え、秋田県内の施設法人役員や施設職員、大学教員などが参加しました。神野学長からは、国家は家族のように組織されなければならない。社会福祉は悲しみを分かち合い悲しみを幸せに変える制度である。というお話いただきました。

セミナー終了後の交流会には3県の同窓生など30名が参加。交流と親睦を深め、賑やかな会となりました。次年度は青森県で開催の予定。

交流会(キャッスルホテル) 門脇 琢也



研究科20期生「アゴラの会」2年振りに

11月8日(金)。アゴラの会は、1966年卒業の13名(卒業時22名)のクラス会です。当時は、22名が仲村先生の公的扶助、石井先生の児童福祉、小松先生の医療福祉、鷲谷先生の地域福祉の各コースに所属し、社会調査では報告書を取りまとめるため夏休みを返上して原宿校舎で夜遅くまで過ごしたことが記憶に残っています。

会を開催する際には、近況をハガキに書いてもらい編集し会報「アゴラの集い」として発行しています。

勝亦 功臣



太平洋(四ツ谷)

お見舞い「台風19号」で被災された皆様へ

この度の台風19号により風水害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今なお被害の全容がつかめず、案じられる状態ですが、一日も早い復旧をお祈りいたします。

令和元年10月16日

日本社会事業大学同窓会 会長 岩崎俊雄

【訃報】

1995年から13年間という長い間、日本社会事業大学の学生寮「松窓寮」の管理人(寮母)をされてきた国安幸代さんが、2019年12月にお亡くなりになりました。

寮生との交流も大事にし、大学を卒業してからも国安さんにお世話になった方は本当に多かったことと思います。

寮生との思い出を綴った自費出版本の出版を機に、2011年を1回目に松窓寮の同窓会をこの間、開催してきました。「今年こそはみんなに会いたい」という願いを叶えることができなかったことは、本当に心残りです。

最期まで寮生のことを気にかけていた国安さん。みなさんの心の中で大切な思い出とともにしっかりと残っていくことと思います。

95年度生 深澤昌子/96年度生 遠矢充宏



「OB・OGとの交流会」チラシ

運営委員会 10月5日・12月22日

社大生の「職場訪問・体験」「セミナー参加」を応援する職場体験応援制度の活用と大学社会福祉学会との協働について協議しました。学会とのコラボによる「OB・OGとの交流会」「同窓生と一緒に考える!」の同窓会企画は、今年参加者が大幅に増え、活気ある催しになりましたが、在校生に多数参加してもらうことで母校・社大の発展に寄与していきたいと思っています。

■JCSWネットワーク職場体験等応援制度の周知促進
■社会福祉学会と同窓会企画の連携・木田賞適任者の推薦
■支部強化費の運用
■新同窓会名簿の発行など

神野直彦学長著書
プレゼント

神野学長の『「分かち合い」の経済学』(岩波新書・新赤版、200ページ)をプレゼントします。今回は、抽選で10名様に。同窓会オリジナルファイル2種類も付けて。住所・氏名を次のあて先までご連絡ください。

〈郵便の方〉〒204-8555

清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学同窓会

〈FAXの方〉042-496-3051

〈E-mailの方〉kouyu@jcsw.ac.jp

茨城県大子町に
母校の学生が支援に

11月3日、先月被害があった大子町に大学関係者が支援に来てくださいました。学生4名及び専門職大学院生3名と災害ソーシャルワークセンターと清瀬市社協の方々、そして菱沼准教授(同窓会事務局長)が参加してくださいました。(災害ボランティアに参加/茨城県同窓会ブログから転載)



PHOTO NEWS

新関東大学準硬式野球連盟創立40周年記念祝賀会 12月7日

1979年4月、日本社会事業大学グラウンド(当時・渋谷区神宮前)にて開会式・リーグ戦を開始してから40年を迎えました。《戦績》1部優勝1回、2部優勝18回、3部優勝3回《現役選手の意気込み》一戦必勝で1部昇格を勝ち取ります!!

生活協同組合購買書籍部
(厚生棟1階の近況)同窓会費納入に
ご協力を

同窓会は、卒業生同士の活動だけでなく在校生とも一緒になって、社大教育と実践をつないでいきます。会報「社大同窓会」を年に2回約8,000人の同窓生・約1,000人の在校生にお届けしています。会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき一人でも多くの方のご協力をお願いします。

同窓会役員一同

問題意識を建設的に 考え、行動に つなげていくこと

塚本 由希乃
学部48期
(2008年卒)

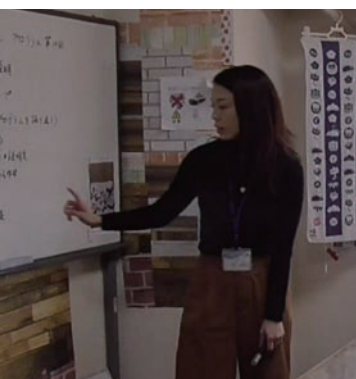


はるにれの里で発達障がい児・者の支援に関わられています

私が勤めている札幌市自閉症・発達障がい者支援センターおがるは、発達障害者支援法に基づき、二〇〇五年より運営を行なっています。開設当初から、全年齢、診断がある無しにかかわらず相談を受けるというスタンスを変えずに、五名のスタッフと一名の地域支援マネージャーという配置で、二次的、三次的な支援の取り組みに力を入れていくところです。

おがるは以下、四つの事業目的をもっています。

- ・「地域支援」―機関支援や主催研修、講師派遣。ご本人やご家族への情報整理面談
- ・「本人家族プログラム」―おがるのスタッフと関係機関で協働するモデル的な取り組み
- ・「普及啓発」―発達障がいについて正しく市民の方に知っていただく取り組み
- ・「調査・報告」―おがるにできる調査や情報整理をして地域課題を検討する取り組み



の傾向のある方も含めると、その人数は、年々増えている状況です。彼らが地域で生活をしていくために、相談先や通所（学）先、就労先など、生活環境を整えていくことは、ますます大事な役割の一つになっていると感じています。他、予防的介入として、発達障害についての気づきがいった早期に、専門的に療育を行ったり、より、一人一人の特性に重点をおいてスキルを教える等、モデル的にプログラムを実施することもあります。

現支援センターに至るまでの私の経歴と現状について

私は、短大英文科卒業時に社会福祉の学びを決め、編入学で、社大に入っています。社大卒業後は、東京にある、主に自閉症等を対象とする障害福祉関係の社会福祉法人にて四年間勤務しました。日々の支援では行き詰まりのような難しさにぶつかるとももちろんありましたが、その難しさは、自分のより専門的な学びの必要性への認識につながっていきます。支援を根拠をもって考えることの重要性、という、新たな問題意識です。人間の発達支援についてより具体的に知り、その知識を支援で活用ができるようになりたいと考え、臨床心理学専門とする大学院への進学を決めます。このタイミングで札幌に戻ってきますが、大学院では現在の法人で働く方と出会い、修士課

程修了後は、現法人である社会福祉法人はるにれの里に入職しました。法人では初めは、就労支援の業務に携わりました。課題は様々感じましたが、特に就職後の支援では、手から離れていくケースは少ない反面、フォローアップのケースは増えていく現状に「もつと根本的な所に課題があるのでは？」等という漠然とした思いを抱いていました。もつと現場で本人たちと関わったり教える経験を持ちたいと考えていました。

その後、三年前からは発達障害支援センターの業務に携わっています。同時期に福祉の現場以外での経験を得ることを目的に、二年間スクールカウンセラーも経験しました。

現在のセンターでは、発達障害の傾向のある青年期の方向けに、彼らの学び方に合わせ、就労の土台に当たるスキル（目標をもつスキル、頭の中の情報整理の仕方等）を教えるプログラムを実施しています。プログラムは、アメリカで実際に行われた一定の効果が見込まれているものを参考にしています。実際のプログラムの実施前後には、効果を測りながら進めています。

塚本さんは平成二八年の就活北海道フェアの開催メンバーで、現在は同窓会イベント「OB・OGとの交流会」につながっています。

当法人は四百名以上の職員がおり、比較的大きな社会福祉法人だと思っています。そんな法人に入職して三年目の春、何と法人の理事長と私が法人内ではたった二人きりの社大卒業生であることが発覚しました。その年は就活フェアの開催初年度でしたが、そこからメンバーとして関わらせていただき、その後は基本的には毎年就活フェアに参加させていたでいます。私は、基本的に仕事にやりがいや楽しさを感じながら働いている人間です。交流会へは、自分と同じように、働くことに楽しさを感じられる仲間を作りたい、という思いで、出向かせていただいています。

学生時代（社大）の思い出

編入生の忙しさは理解していたつもりですが、北海道から東京に行った私としては、視野や人との出会いの幅を広げたいという気持ちもあり、四年生からはあえて都心でのアルバイトも経験しました。バイト仲間と遊ぶのもとても楽しく、本業である学業（単



位取得、実習、就活、国家試験など）と、我ながらなかなか多忙な二年間でした。その中でも、今でも記憶に残る授業は、実際に現場で働いている方を講師として招いている授業、そして、心理学関係の授業です。世の中がそんな風になっていくんだという支援現場の現実感と、実際に関わることでの人の心の変化するという心理学という学問はわかりやすく、当時より興味深く感じていました。

今後の抱負

私のこれまでの経緯は、経歴だけを見ると全く一本道ではないのですが、振り返ると、毎回自分の中には明確なきっかけと目的があり、今に至るまでストーリーとしてつながっていることに気がつきます。仕事は、業務を行う中で抱く、自分なりの問題意識を建設的に考えたり、行動につなげていくことができる、より充足感を感じることができるようになっていきます。今後も、問題意識を形にして、時に振り返りながら楽しんで働いていきたいと思っています！



はるにれの里社大メンバー

プロフィール 塚本 由希乃（つかもと ゆきの）

1986年北海道札幌市生まれ。2006年北星学園大学短期大学部卒業、2008年日本社会事業大学卒業。2014年北海道大学大学院教育学院（臨床心理学）修士課程修了。現在、社会福祉法人はるにれの里札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる勤務。